

.....

**館園名** : 愛洲の館

**1. 施設の概要**

**開館年月日 (西暦)**

・ 1995 年 04 月 01 日

**所在地**

・ 〒516-0101 三重県度会郡南勢町五ヶ所浦 2 3 6 6

**公式サイト**

・ <http://>

**設立主体**

・ 南勢町

**運営主体**

・ 南勢町教育委員会

**設立目的**

・ 剣祖といわれる愛洲移香斎を顕彰し、あわせて町の歴史を啓発するのを目的として設立。

**展示概要**

・ 移香斎関係資料、及び、町内の古墳からの出土品のほか、町内で使用した農林漁業の道具等。

**活動概要**

・ 特に 2 回程度の企画展を実施。その他絵手紙、折り紙等の実演講習会。

**延床面積**

・ 336 m<sup>2</sup> (ほかに 335 m<sup>2</sup>の剣道場を併設している)

**全職員数 (常勤職員)**

・ 3 名 ('04 年 12 月現在)

**年間運営費**

・ 707,000 円 (2003 年度)

**総資料点数**

・ 3,000 点 ('04 年 12 月現在)

**施設その他**

・

## 2. ボランティア活動 名称：愛洲の館友の会

### 活動目的・経緯

- ・館の運営の手伝い。

### 活動人数（総数、男女比、年齢構成）

- ・ 60名（'04年12月現在）
- ・ 男性：35名、女性：25名
- ・ 平均年齢65歳：男性65歳、女性65歳

### ボランティア担当職員（ 年 月現在）

- ・ 部局名称：
- ・ 担当人数：常勤職員 名・その他（ ） 名

### 活動の種類（種類別にご記入願います）

- ・
- ・
- ・
- ・

### 活動その他（活動全体に関わる特記事項など）

- ・

### 関連する出版物

- ・

### 関連するHP

- ・ <http://>

### 館外組織（NPO等）との連携（館内ボランティア以外での連携など）

- ・

.....

**館園名** : 伊賀越資料館

## 1. 施設の概要

### 開館年月日

・1968年07月 日

### 所在地

・〒518-0825 三重県伊賀市小田町 1321

### 公式サイト

・http:

### 設立主体

・上野市（現 伊賀市）

### 運営主体

・社団法人伊賀上野観光協会

### 設立目的

・日本三大仇討の一つに数えられる伊賀越鍵屋辻の決闘当時の遺品、資料を展示することにより後生に伝えることを目的として設置。

### 展示概要

・鍵屋辻仇討当時の遺品、資料、記録、錦絵や荒木又右衛門自筆の起き請文といった貴重な資料を収蔵。

### 活動概要

・毎年11月7日に伊賀越鍵屋辻法要を行っている。（関係者の供養）

・

・

### 延床面積

・102.911 m<sup>2</sup>

### 全職員数

・9人

### 年間運営費

・130万円（2003年度）

### 総資料点数

・123点

### その他

展示品などの解説板及び案内表示板の英語・アジア関連語併記を計画、進行中。

## 2. ボランティア活動 名称：伊賀越史跡保存会

### 活動目的・経緯

・「史跡鍵屋ノ辻」の保存と伊賀越仇討に関する地域文化の継承を目的とし、地域住民とりわけ高齢者層のいきがづくりや交流の場として観光施設の運営や、園地美化を推進するボランティアの観光団体「伊賀越史跡保存会」を社団法人伊賀上野観光教会が結成。

### 活動人数（総数、男女比、年齢構成）

- ・ 9名（2004年12月現在）
- ・ 男性：6名、女性：3名
- ・ 平均年齢 68,5歳：男性73歳、女性59歳

### ボランティア担当職員（2004年12月現在）

- ・ 部局名称：社団法人伊賀上野観光教会事務局
- ・ 担当人数：常勤職員 3名・その他（ ） 名

### 活動の種類（種類別にご記入願います）

- ・ 入館者の案内と入管料金の授受。
- ・
- ・
- ・

### 活動その他（活動全体に関わる特記事項など）

・ 社団法人伊賀上野観光協会より伊賀越史跡保存会へ運営を委嘱。  
ただし、館長は社団法人伊賀上野観光協会事務局次長が兼務。  
伊賀越史跡保存会会長がボランティア全体を取りまとめている

### 関連する出版物

- ・ なし

### 関連するHP

- ・ <http://www.ict.ne.jp/~iga-ueno/>

### 館外組織（NPO等）との連携（館内ボランティア以外での連携など）

- ・ なし

活動個別シート 活動名：

◇活動開始年（西暦）

- ・2002年

◇活動人数

- ・9名（2004年12月現在）

◇活動内容

- ・常設展の解説と入館料金の授受を行う。

◇活動日

- ・毎日活動（休館日を除く）。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・年間運営費と同じ。

◇運営（シフト 等）

- ・9名でシフトを組み、毎日1名で業務を行う。

◇交流（情報、組織 等）

- ・連絡ノートを作成している。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・なし。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・なし。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・日当3000円（交通費込）。

◇評価

- ・なし。

◇課題と展望

- ・展示品等の解説および案内表示板の外国語併記を行い、より多くのお客様に伊賀越鍵屋辻決闘を知って頂きたい。

◇その他

- ・なし

.....

**館園名** : 三重県立美術館

## 1. 施設の概要

### 開館年月日

- ・ 1982年09月00日

### 所在地

- ・ 〒514-0007 三重県津市大谷町11

### 公式サイト

- ・ <http://www.museum.pref.mie.jp/miekenbi/>

### 設立主体

・

### 運営主体

・

### 設立目的

- ・ 県民に広く美術鑑賞の場と学習の機会を提供することにより、県民の心の豊かさとうるいおいのある生活の充実をめざして、県内唯一の本格的な美術館として開館。

### 展示概要

- ・ 明治以降の日本近代洋画を中心に、日本の近代美術に強い影響を与えた海外の作品、近世以降の三重県にゆかりの深い美術家の作品、スペイン美術を収集。
- ・ 年4期に分けテーマを設定し、「美術館コレクション」として、常設展示室に展示。

### 活動概要

- ・ 自主企画展・共同企画展を年間6～8回程度開催。
- ・ 企画展の内容に即した美術講習会、移動美術館、美術セミナー、ミュージアム・コンサート、ギャラリートークなどを開催。
- ・ 美術ニュース「HILL WIND」、年報、紀要を発行。

### 延床面積

- ・ 10,665.88 m<sup>2</sup>

### 全職員数

- ・ 14名（委託の監視員を含まず）

### 年間運営費

- ・ 約350,000千円

### 総資料点数

- ・ 約5,000点

### その他

- ・ 2003年11月に、柳原義達記念館をオープン。

## 2. ボランティア活動 名称：櫛の会

### 活動目的・経緯

- ・ 1982年8月、報道機関を通じ、広く一般県民から美術館ボランティアを募集。
- ・ 2001年、全会員が活動内容を把握し、よりよい日々の活動を続けていくために、部門制を立ち上げる。

### 活動人数（男女比、年齢構成）

- ・ 100名（2004年）
- ・ 男性：7名、女性：93名（2004年）
- ・ 平均年齢 歳：男性 歳、女性 歳（ 年）

### ボランティア担当職員

- ・ 部局：学芸普及グループ 担当人数：常勤1名・その他（ ） 名

### 活動の種類

- ・ ①受付業務、②団体案内、③身障者の案内、④普及活動への協力、⑤資料整理、⑥発送作業、⑦他館ポスターの掲示

### 活動その他

- ・ 会長1名、副会長2名をふくむ、チーフと呼ばれる組織役員が8名いる。チーフは、交代で一日中美術館に滞在し、美術館と会との連絡事項や各種調整を行う。
- ・ 年1回、「館長と語る会」を開催。
- ・ 新年会などの交流会あり。
- ・ 月2回程度、半日活动（9：30～13：00、13：00～17：00）するほか、月1回程度、各部門の活動を行う。
- ・ 毎日4名が割り当てられる。この他、緊急呼び出し人員が、午前午後各1～2名ずついる。
- ・ 「櫛しんぶん」を毎月発行。会の現況をいつも把握できるようになっている。
- ・ 県の広報、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などで広報。
- ・ ボランティア養成講座（10回、延14時間）を行い、面接・レポート提出の上、研修期間を経て採用。
- ・ 館長、および学芸員が、それぞれ年に1回（年間合計7回）ボランティア対象教養講座を行う。
- ・ 展覧会ごとに、展覧会担当学芸員がボランティア会員対象にギャラリートークを行う。
- ・ 研修旅行を実施（春秋各1回）。
- ・ 「美術館に要求しない、迷惑はかけない」を合い言葉に、自覚と責任をもった活動を続けている。
- ・ 館員が、労を惜しまずに対応していることが、ボランティア活動の活発化に結びついている。
- ・ 組織や活動の活性化、メンバー間の格差など、歴史がある組織ならではの課題がある。

### 関連する出版物

- ・ ボランティア養成講座のための小冊子がある。
- ・ 「ボランティア櫛の会の歴史と概要」。

### 関連するHP

・

### 館外組織（NPO等）との連携

・

.....  
**館園名** : 四日市市立博物館

## 1. 施設の概要

### 開館年月日

- ・ 1993年11月01日

### 所在地

- ・ 〒510-0075 三重県四日市市安島1-3-16

### 公式サイト

- ・ <http://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum>

### 設立主体

- ・ 四日市市

### 運営主体

- ・ 四日市市

### 設立目的

- ・ 「伊勢湾と鈴鹿山脈のある四日市の文化と生活環境」を基本テーマに、交通の要所として発展した四日市の歴史を豊富な資料で紹介する。

### 展示概要

- ・ 萬古焼や浮世絵をはじめ、地域に関わる自然・考古・民俗・歴史・美術工芸資料を中心に収蔵。
- ・ 常設展示では、地質時代から現代までを6つのテーマに分けて紹介。
- ・ プラネタリウムの展示コーナーでは、宇宙の構造や古代人の宇宙観について展示。

### 活動概要

- ・ 企画展、講座、講演会、移動天文車による天体観望会、星空コンサートなどを開催。

### 延床面積

- ・ 10,147 m<sup>2</sup>

### 全職員数

- ・ 24名（嘱託職員2名、臨時職員7名を含む）

### 年間運営費

・

### 総資料点数

・

### その他

・



## 2. ボランティア活動 名称：四日市市立博物館ボランティアの会 四日市市立博物館天文ボランティア

### 活動目的・経緯

#### <ボランティアの会>

- ・ 博物館設立構想の中にあつた「市民学芸員の設置」を、生涯学習の場として、展覧会ごとの解説ボランティアという形で発足。1996年4月、活動開始。
- ・ その後、当館が実施した「古文書講座」の修了者による古文書ボランティア、教育普及活動を補助する教育ボランティアが発足。

#### <天文ボランティア>

- ・ 1996年7月に運用を始めた移動天文車「きらら号」による天体観望会の実施に合わせて、活動を開始。小型望遠鏡の設置や、星座の解説、参加者の誘導など、より充実した観望会を実施することを目的に結成。
- ・ 2002年度からは、館主催の天文普及事業（子ども天文教室）などへの参加・協力も始めた。

### 活動人数（男女比、年齢構成）

- ・ 170名（2004年）
- ・ 男性：67名、女性：103名（2004年）

#### <ボランティアの会>

- ・ 124名（2004年）
- ・ 男性：41名、女性：83名（2004年）
- ・ 平均年齢 歳：男性 歳、女性 歳（ 年）

#### <天文ボランティア>

- ・ 46名（2004年）
- ・ 男性：26名、女性：20名（2004年）
- ・ 平均年齢48歳：男性52歳、女性45歳（2004年）

### ボランティア担当職員

- ・ 部局：企画普及係<ボランティアの会> 担当人数：常勤3名・その他（ ） 名
- ・ 部局：天文係<天文ボランティア> 担当人数：常勤2名・その他（ ） 名

### 活動の種類

#### <ボランティアの会>

- ・ ①解説ボランティア、②教育ボランティア、③古文書ボランティア。

#### <天文ボランティア>

- ・ ④観望会・天文普及事業への協力。

### 関連する出版物

・

### 関連するHP

・

### 館外組織（NPO等）との連携

・

## 活動個別シート ①解説ボランティア<ボランティアの会>

### ◇活動開始年

- ・ 1996 年

### ◇活動人数

- ・ 86 名 (2004 年)

### ◇活動内容

- ・ 特別展・企画展の解説・案内、および監視。

### ◇活動日

- ・ 特別展・企画展開催期間。

### ◇補助 (予算、備品、ボランティア室 等)

- ・ 職員と共有の控え室あり。

### ◇運営 (シフト 等)

- ・ 1 回の活動は半日単位とし、活動希望日 (午前・午後) を自己申告し、これにより職員が全体の活動日程表を作成配布する。
- ・ 2 週間に 1 回、あるいは会期中に 2 回以上の活動を原則とする。

### ◇交流 (情報、組織 等)

- ・ 交遊ノートを設置。年に 1 度、懇親会を実施。
- ・ ボランティアが自主的に小旅行などの親睦会を実施。

### ◇募集 (広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・ 2 年ごとに、市広報で公募。条件：16 歳以上。定年なし。任期 2 年 (再登録可)。
- ・ 登録研修 (3、4 回) を受講し、面接を経て本登録。

### ◇研修 (種類、内容、講師 等)

- ・ 職員および外部講師が、登録研修 (養成講座) を実施。コミュニケーションスキルに重点。
- ・ 職員が、展覧会ごとに事前研修会を実施。
- ・ 職員が、週 1 回教養講座を実施。フォローアップ・自由参加。
- ・ その他、ボランティアが自主的に勉強会を実施。

### ◇待遇 (交通費、食費、保険 等)

- ・ 全員がボランティア保険に加入 (費用は館が負担)。
- ・ 展覧会招待券を配布 (1 人 2 枚)。

### ◇評価

### ◇課題と展望

- ・ 自主的に勉強をしないと、監視業務になりがちである。
- ・ 活動が、特定メンバー、特定曜日になりがちなので、相互親睦が行いにくい。

### ◇その他

## 活動個別シート ②教育ボランティア<ボランティアの会>

### ◇活動開始年

- ・ 2003 年

### ◇活動人数

- ・ 8 名 (2004 年)

### ◇活動内容

- ・ 学校見学への対応 (年間 3 本開催する学習支援展示の解説・体験補助)。
- ・ 当館が実施する子ども対象事業「子ども博物館教室」への指導補助。

### ◇活動日

- ・ 学校見学の予約がある日。
- ・ 子ども博物館教室の開催日 (月 1~3 回、土曜日)。

### ◇補助 (予算、備品、ボランティア室 等)

- ・ 職員と共有の控え室あり。

### ◇運営 (シフト 等)

- ・ 館からの連絡に応じて、活動可能日を申告。

### ◇交流 (情報、組織 等)

- ・ 年に一度、懇親会を実施。

### ◇募集 (広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・ 2 年ごとに、市広報で公募。条件: 16 歳以上。定年なし。任期 2 年 (再登録可)。
- ・ 登録研修 (3、4 回) を受講し、面接を経て本登録。

### ◇研修 (種類、内容、講師 等)

- ・ 職員および外部講師が、登録研修 (養成講座) を実施。子どもとの接し方に重点。
- ・ 職員が、学習支援展示の事前研修会を実施。
- ・ 職員が、週 1 回教養講座を実施。フォローアップ・自由参加。

### ◇待遇 (交通費、食費、保険 等)

- ・ 全員がボランティア保険に加入 (費用は館が負担)。
- ・ 展覧会招待券を配布 (1 人 2 枚)。

### ◇評価

- ・

### ◇課題と展望

- ・ 学校見学の予定が直前まで分からないことが多いので、活動予定を立てにくい。そのため、連絡調整が、スムーズにできない。

### ◇その他

- ・

### 活動個別シート ③古文書ボランティア<ボランティアの会>

#### ◇活動開始年

- ・ 1997年

#### ◇活動人数

- ・ 30名(2004年)

#### ◇活動内容

- ・ 館蔵古文書の解説、翻刻。

#### ◇活動日

- ・ 月に2回(隔週水曜日グループと隔週木曜日グループあり)。

#### ◇補助(予算、備品、ボランティア室 等)

・

#### ◇運営(シフト 等)

- ・ 隔週水曜日グループと、隔週木曜日グループが、それぞれ月2回活動。

#### ◇交流(情報、組織 等)

- ・ ボランティアが、自主的に親睦会を実施。

#### ◇募集(広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・ なし(当館が実施した「古文書講座」修了生による活動であるため)

#### ◇研修(種類、内容、講師 等)

・

#### ◇待遇(交通費、食費、保険 等)

- ・ 全員がボランティア保険に加入(費用は館が負担)。

#### ◇評価

- ・ 成果を、当館研究紀要に掲載。

#### ◇課題と展望

- ・ 館のほかのボランティア活動と成り立ちが違うため、活動のようす(メンバーの活動状況等)がよくわからない。運営のあり方など、今後検討する必要がある。

#### ◇その他

・

## 活動個別シート ④観望会・天文普及事業への協力<天文ボランティア>

### ◇活動開始年

- ・ 1996年

### ◇活動人数

- ・ 46名（           年）

### ◇活動内容

- ・ 観望会や天文普及事業で協力する。

### ◇活動日

- ・ 観望会、天文普及事業の実施日。

### ◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

・

### ◇運営（シフト 等）

・

### ◇交流（情報、組織 等）

- ・ 月に1度定例会を実施。

### ◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 不定期に、市広報にて公募。
- ・ 養成講座参加後、登録。

### ◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ ボランティア養成講座を実施。
- ・ ボランティアが、自主的に勉強会を実施。

### ◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ 全員がボランティア保険に加入（費用は館が負担）。
- ・ プラネタリウム番組招待券を配布。

### ◇評価

・

### ◇課題と展望

- ・ メンバーの固定化が問題。

### ◇その他

- ・ ボランティア主催の観望会を実施。